



Jaws レポート 65

Japan Animal Welfare Society

発行人：山下真一郎
編集人：桜井邦広
〃：山口千津子
編集協力：平山企画舎



発行 / 公益社団法人日本動物福祉協会 〒141-0031 東京都品川区西五反田8-1-8 中村屋ビル内 TEL(03)5740-8856 FAX(03)5496-0930 http://www.jaws.or.jp

東日本大震災 ペットたち動物も辛い日々が…



▲石巻市内の様子

発生からの経過報告

未曾有の大震災

3月11日午後14時46分頃、震源域が岩手県沖から茨城県沖まで南北約500km、東西約200kmの広範囲にわたるマグニチュード9・0の激震、そして、それに続く高さ20メートルとも30メートルとも言われる津波が東北・北関東を襲いました。震災は東日本全土にわたり、首都東京も交通機

「東日本大震災」被災動物救援活動 …… 1～2
「公益社団法人」認定のお知らせ …… 1
動物取扱業取り消し処分（栃木県鹿沼市）3～4
動物との共生を考える連絡会から …… 5
第2回 RSPCA 動物福祉短期研修会開催結果 …… 5
第2弾シェルターメディシンセミナー報告 …… 5

◆主な内容◆

理事会レポート／阪神支部について …… 捨て犬・捨て猫防止キャンペーん最終結果 …… 6
緊急災害時動物救援本部義援金のお願い／ほか… 定時会員総会開催のご案内 …… 6
寄付者ご芳名／事務局から …… 7
ジョーズジュニアコーナー …… 7
8 7 7 6 6 6

動物、避難所で受け入れられないのではなく自宅に留められた動物、飼い主とともに避難できた動物と様々な境遇に置かれています。

発災後、震源地や状況が徐々に明らかになるにつれ、その規模の大きさと被害の甚大さに驚愕しつつも、翌日から動物たちの状況把握に努めましたが、大規模なライフラインの崩壊で情報の入手は困難を極めました。

救援本部での対応を決定

3月14日、緊急災害時動物救援本部の緊急会議を招集し、構成団体である財団日本動物愛護協会・(公社)日本愛玩動物協会・(公社)日本獣医会・当協会が一致協力して動物救援本部として被災地の動物たちに対応することを決定し、そのための義援金・物資の募集を開始しました。

翌15日から被災動物の預かりを始めましたが、18日からは(公社)東京都獣医師会のご協力で、有志の先生方の動物病院で動物と共に東京近辺に避難されてこられた方々の主に犬猫を預かるところを開始しました。その後順次、横浜市・川崎市・神奈川県の獣医師会も協力を申し出てくださいました。

現地では多くの動物病院も被災し、電気も水道もなく、診療が出来なくなっている状況にもかかわらず、被災者である先生方自らが、備蓄してあったフード等の物資を避難所に届けたり、無事だったところで動物を保護したりと、懸命の努力を続けられています。仙台市動物管理センターにおいても、通常業務は停止し、ライフラインの復旧がない中、避難所にペットフードを届けながら現状把握に努めておられました。ただ、今回は死者・行方不明者が2万7836(4月9日現在)名という中で、動物のことを声高に言ないうことはばかり、静かに、でも、出来るだけ動物を助けると共に必要なことを語っていました。

このように必要なものをと動いていました。多くの方がなくなられた地域の避難所ではとても動物のことを言い出せる雰囲気ではありませんでした。しかし一方、動物と共に避難してこられている方々から助かりますと言はれることもあり、彼らは助かりますと言はれることもあります。

発災直後から、電話が通じない中いろいろな人を介してペットフード・水・ペットシーツ・猫砂・電池等の物資のSOSがあつた被災地の動物保護施設に物資を送ろうとしましたが、道路事情とガソリン不足で東京からの輸送手段がなかなかとれず、結局新潟県内の協力者にお願いして新潟から運んでいただきました。今回は、大規模災害に加えてガソリン不足が支援の手を遅らせる大きな要因になったと思います。東京からの輸送を難しくしただけでなく、何とか被災地の拠点に届けた物資をそこから先の必要な方々に配布する車の便の確保も難しくしました。それでも被災地の各自治体や獣医師会・自治体と協力して活動している動物愛護団体や緊急災害時動物救援本部構成団体の支部等にボランティア価格で物資を運んでくださる4トントラックや同じ方面に行かれる方についで

災された方々への配慮を忘れては逆に動物を助けることができなくなることを思いました。

現地では多くの動物病院も被災し、電気も水道もなく、診療が出来なくなっている状況にもかかわらず、被災者である先生方自らが、備蓄してあったフード等の物資を避難所に届けたり、無事だったところで動物を保護したりと、懸命の努力を続けられています。仙台市動物管理センターにおいても、通常業務は停止し、ライフラインの復旧がない中、避難所にペットフードを届けながら現状把握に努めておられました。ただ、今回は死者・行方不明者が2万7836(4月9日現在)名という中で、動物のことを声高に言ないうことはばかり、静かに、でも、出来るだけ動物を助けると共に必要なことを語っていました。

このように必要なものをと動いていました。多くの方がなくなられた地域の避難所ではとても動物のことを言い出せる雰囲気ではありませんでした。しかし一方、動物と共に避難してこられている方々から助かりますと言はれることもあり、彼らは助かりますと言はれることもあります。



避難所の車の中で飼育されている犬

輸送手段が確保できます

現地では多くの動物病院も被災し、電気も水道もなく、診療が出来なくなっている状況にもかかわらず、被災者である先生方自らが、備蓄してあったフード等の物資を避難所に届けたり、無事だったところで動物を保護したりと、懸命の努力を続けられています。仙台市動物管理センターにおいても、通常業務は停止し、ライフラインの復旧がない中、避難所にペットフードを届けながら現状把握に努めておられました。ただ、今回は死者・行方不明者が2万7836(4月9日現在)名という中で、動物のことを声高に言ないうことはばかり、静かに、でも、出来るだけ動物を助けると共に必要なことを語っていました。

このように必要なものをと動いていました。多くの方々がなくなられた地域の避難所ではとても動物のことを言い出せる雰囲気ではありませんでした。しかし一方、動物と共に避難してこられている方々から助かりますと言はれることもあり、彼らは助かりますと言はれることもあります。

当協会は公益社団法人に認定されました。

必要な情報を収集整理し、年明け1月に申請書を提出致しました。

●その後、数回にわたる修正作業等もありましたが、3月末に正式認定を受けることが出来ました。4月1日に登記を行い、今後は名称も、「公益社団法人 日本動物福祉協会」となりますことをご報告いたします。

※「公益社団法人」略号=(公社)

●平成20年12月1日実施の公益法人制度改革で、全ての社団・財団法人は5年以内に公益社団・財団法人に認定されるか、一般社団・財団法人に認可されないと、解散せねばならないと決定されたことは、皆様既にご承知のことだと思います。

●当協会も、事業の公益性が明白であり、ご寄附に関して、税制上の優遇措置が受けられる利点があること等から、公益社団法人の認定を目指して、定款の改定や組織の整備を重ねて参りました。昨年6月以来、内閣府の公益認定等委員会のガイダンスをいただきながら、申請に必

シーツを畳むながら要望を開き、動物に関する相談会を持ちました。確実な数は把握されていないのですが、おそらく20頭以上の犬・猫・ウサギが飼い主と共に避難して来ており、そのほとんどは、大きな駐車場に止めた車の中で生活していました。車中での生活は、新潟県中越大地震の時に犬と共に車中で寝泊りされていた方がエコノミー症候群で亡くなられたり、部屋のようになっている駐輪場で動物を飼育しても良いと許可がでてお配もあります。避難所一階にあるコンクリートの部屋のようになっている駐輪場

福島県災害対策本部を 立ち上げ

に積載してもらつたりして、できるだけ早く届ける努力をしました。物資につきましては、ペットフード協会やペット用品関係の企業からたくさんご寄付をいたしましたが同時に、全国の一般市民や動物関係の職業に従事されておられる方々からもいろいろご寄付をいただき、大変ありがとうございましたがたく感謝いたしております。救援本部に寄せられる物資の集散所として一軒家を家主のご好意でお借りし、ボランティアによる物資の仕分け・整理・保管・積み出しをしてきました。

3月25日夜 東京都都醫師会災害担当
理事の先生と共に、都内にある避難所の
ひとつ味の素スタジアムを訪問し、動物
専用部屋を見せていただきました。じゅ
うさんが敷かれ、暖房も効いたお部屋で
犬は一頭一頭、東京都が貸し出したケー
ジに入れられていました。飼い主が移動
したりで犬は7頭にまで減っていました。
た。この部屋を使用するについてのルー
ルが扉に書かれ、清掃や犬の世話は飼い
主の責任となっています。開所当初は大
の数も多く、臭いもあったが、清掃の徹
底・消臭剤の使用とケージの下に消臭
マットを敷くことで臭わなくなつたそつ

都内にある避難所を訪問

福島県災害対策本部を立ち上げ

3月23日、当協会山口職員は(社)福島県獣医師会会長・理事の方々および県農物担当職員と話し合い、県は人間への対応で忙しいということなので、獣医師会として福島県獣医師会災害対策本部を立ち上げ被災動物に対応することになりました。翌日、郡山市内にある避難所のひりードも新しくしました。郡山市の動物担当職員とも話し合い、協力して動物の救護とケアに当たることを確認しました。

とつ「ビッグパレット(多目的ホール)

うがずっと一緒にいられるから良いとの返事が返ってきました。駐輪場には柴犬1頭が毛布の上につながれていて、コンクリートの床にじかに食べ物を置いていましたので、新しい食器を置くと共にリードも新しくしました。郡山市の動物担当職員とも話し合い、協力して動物の救護とケアに当たることを確認しました。

り 飲い主の方々にケーシの貸し出しも出来ることを伝えましたが、車にいるほ

曾有の災害に、歐米・アジアの様々な動物福祉団体から義援金・物資の送付のみならず、災害時動物救護専門家の方々が援助および調査のために派遣されて来ました。



物資輸送の4トントラック

らの物資が届きました。病院ではスタッフもボランティアも戦場のように働いていましたが、避難所や家に残されている動物についての調査も行われています。保護しなければならない動物の数が増え、動物病院だけでは対応しきれないので、動物救護センターを設けることになりました。県の土地を借りてその準備が始まりました。救援本部としても、物資だけでなく、様々な援助をしながら、石巻における動物救護活動をサポートしていくかたいと考へています。

病院スタッフの活動に同行しているところに、津波に飲み込まれたものと考えられ

石巻市での救援サポート

です。外に散歩に行く場合には廊下をじかに歩かせるのではなく、台車に乗せて部屋戻る約束になっています。ドッグランの紹介もされていました。口頭では、緊急災害時動物救援本部が預かりやフード・ペットシーツ等の相談に応じますと伝えていましたが、改めてその旨の張り紙をさせていただきました。すると、翌日には、ケージに頭がつかえていた犬の飼い主からお電話をいただき、東京都獣医師会の先生のところで預かることになりました。

救援本部は手分けして福島県・郡山市、宮城県・仙台市・岩手県を訪れ、それぞれの救護活動の現状と自治体・獣医師会・ボランティアの連携状況や今後の方針それに伴う救援本部からの義援金も含めた必要な援助について聞き取り、話し合いました。同時に避難所等の現状調査もしました。

新潟県新発田市の避難所では

小学校の教室で犬と共に
帰り道に、市内の避難所で人と動物が
同じ部屋で暮らしている蛇田小学校を辛
れ、飼い主にお話を聞きました。小学生
では、ひとつの教室をその部屋にあて
飼い主は犬と共に、横になつたり、座
たりしていました。中型犬と共にこの幼
屋で暮らしておられる高齢の女性は、こ
の子がそばにいてくれるから生きる気持
ちを保つてていると言わされました。
犬たちは吠え合うこともなく、おとと

止にしておりました陸前高田市が、翌日には迷惑をかけないなら認めるとの方針を立てました。もちろん、私たちも近隣に迷惑をかけるような飼育は認められず、ルールを決めて飼い主の会を作り、獣医師会やボランティアの指導の下で飼育するように勧めています。新潟県中越震災のときには、すべての仮設住宅をペット飼育が認められたのですが、ルール作りと飼育指導を行い、飼育可の棟を分ける住み分けの工夫もされました。一割強の方々が仮設住宅で飼育されていました。

假設住宅で動物飼育を要望

不安は払拭されていないと思います。薄暗くなり始めていましたが、石巻から仙台までの途中、東松島の被災地に立ち寄りました。未だ海水が引かず、一面の泥の中に家や車が埋まり、船が道路に鎮座している様子に、現実のものとは想像えず表す言葉が見つかりませんでした。夜7時も過ぎていたのですが、やっと仙台市動物管理センターに着き、センタースタッフやボランティアの方々に迎えられました。救援本部からの物資も届いていましたが、一般市民からのご寄付もたくさん寄せられていました。センターでは通常業務は中止して被災動物を保護し、行方不明動物の届け出も受け付けています。玄関ホールに写真つき保護動物情報や探しています情報を貼り出し、飼い主の手に動物たちが戻れるよう努力していました。また、飼い主が飼育できなくなってしまった動物については譲渡会を開催して新しい飼い主を見つけています。

今回の大地震はその規模、被害の甚大さから言っても長期化は避けられないと思われます。さらに、原発事故で放射線という目に見えない厄介な危険物に晒され、置き去りにされた原子力発電所の周囲の動物たちの救護の問題もあります。



避難所に併設された飼育棟(新潟県)

義援金のお振込みにつきましては、
6頁にご案内させて
頂いております。

